

〔29〕 次の記述は、「令和の日本型学校教育の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、共同的な学びの実現～（答申）」（令和3年1月26日 中央教育審議会）の「第I部 総論 3.2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育の姿（1）子供の学び」の一部である。空欄 ～ に当てはまるものの組み合わせとして最も適切なものを、後の①～⑤のうちから選びなさい。

学校における授業づくりに当たっては、「個別最適な学び」と「協同的な学び」の要素が組み合わさって実現されていくことが多いと考えられる。各学校においては、教科等の特質に応じ、 を踏まえながら、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協同的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協同的な学び」を 、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。その際、家庭や地域の協力も得ながら な体制を整え、教育活動を展開していくことも重要である。

- | | | | | | | |
|---|---|---------------|---|---------|---|-------|
| ① | ア | 児童生徒の興味・関心等 | イ | 一体的に充実し | ウ | 人的・物的 |
| ② | ア | 地域・学校や児童生徒の実情 | イ | 一体的に充実し | ウ | 持続可能 |
| ③ | ア | 児童生徒の興味・関心等 | イ | 相互に住環させ | ウ | 持続可能 |
| ④ | ア | 地域・学校や児童生徒の実情 | イ | 一体的に充実し | ウ | 人的・物的 |
| ⑤ | ア | 地域・学校や児童生徒の実情 | イ | 相互に住環させ | ウ | 人的・物的 |